

## 第 15 回 盛岡地区かわまちづくり懇談会 意見と対応方針

回数・実施日	主な意見	事務局からの回答（会議当日）	対応方針	
・第15回 (R3・7・2)	① かわまちづくり計画について（規約第3条（所掌事項）1）			
	・無し	—	—	
	② 水辺空間の利活用に関する事項について（規約第3条（所掌事項）2）			
	・中津川の利用が、以前に比べると減ってきているという印象がある。中津川の遊歩道の幅員を広げて、自転車と歩行者の双方が安全に利用できるようにできないか。そうすることで、市民の日常的な利用とともに、レンタサイクルによる観光客の利用も広がっていくのではないか。遊歩道に自転車を入れないというこれまでの方針を転換してもいいのではないか。	—	・かわまちづくりの施設整備は終了している。遊歩道への自転車の導入の是非については利用者や地域の方々の意見を聞く必要がある。	
	・令和元年度から始まったシティマラソン以降、川沿いを走る人が増えているように感じている。利用増と整備が双方向に影響していくことが重要だ。河川空間の使い方をもっとPRするなど、発信が大切だ。	—	・河川空間の使い方のPRなどについては、HPやSNSにおいて今後発信していきたい。 (R4年度 事務所ツイッターでPR、今後も続けていきたい)	
	・かわまち勉強会も将来的に自主的組織を立ち上げという予定になっているが、河川敷を活用しながら徐々に組織が生まれていくというような動きも大事である。	—	・かわまちづくりのなかで自主的に市民組織（市民主体）が生まれていけるように可能な限り支援していく。 (勉強会は、R8年度から盛岡市に事務局完全移行となることから、R7年度までに持続可能な勉強会あり方を検討する。)	
	・昔は水門を閉めるなどの役割が地域側にあり、いつも感心をもって川を見ているウォッチャーがいた。水辺と市民のなじみを深める工夫ができる場所があるのかないのか、点検をしたらよいと思う。	—	・河川協力団体や河川巡視員などが、日常的な川のウォッチャーと考えられる。 また、毎年ではないが「川の通信簿」を活用しながら、点検など検討していきたい。	
	③ その他かわまちづくりの目的に資する事項（規約第3条（所掌事項）4） （モニタリング計画を含む）			
	・参考資料にある施設利用状況モニタリングの調査日時は、どういう決め方をしているのか？	・河川巡視に合わせた時間で実施している。		
	・このペースでモニタリングすれば、データ数は十分である。曜日、時間帯、天候等も利用数に大きく関わるため、それらの属性ごとに結果を整理してみたい。	—	・属性ごとの結果整理も試みたいが、河川巡視時の施設利用状況調査は、休日および雨天のデータがない等の課題がある。 したがって、現状では属性ごとの分析はできない。	
・比較材料とする整備以前のデータはあるか？	・5年に一度実施されている河川水辺の国勢調査の河川空間利用実態調査結果をうまく結び付けたい	・整備以前のデータとして比較できる可能性があるのは5年に一度実施されている河川水辺の国勢調査の河川空間利用実態調査結果であるが、本モニタリングとは調査範囲のスケール（河川空間利用実態調査は各河川全域に対する纏め方）が異なることから、モニタリング期間内での推移の変化を主に見ていきたい。		
・R7年度に事業評価するとなっているが、モニタリングすべき項目については定めがあるのか？	・具体的に決まったものはない。「かわまちづくり計画策定の手引き」（R2.3月）があり、それを参考に今回案を作成した。	・モニタリング調査を進めながら、より盛岡地区かわまちづくりに適したモニタリング項目・方法を検討追加・修正していく。		
・モニタリングでのアンケートは、情報の発信の機会とすることもできるし、それと組織活動づくりや活用と連動したような仕掛けというのが有効ではないか。	—	・アンケートにおける広報の観点も持ちつつ、地域で活動されている方々と連携しながら、効果的な調査となるよう工夫していく。		

回数・実施日	主な意見	事務局からの回答（会議当日）	対応方針
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般の方、それから事業者の方、また研究者の方も含めて、様々な分野の人たちの川に対する評価というのがモニタリングに出てきてほしい。</li> <li>担い手に対するモニタリングも検討してほしい。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>web アンケートを活用し、広く市民の意見を収集していく。</li> <li>担い手については、かわまち勉強会で議論していきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわまちづくりについて豊富な整備が行われていることを初めて知った。このような取り組みは一部の好きな人がやっていると捉える人も多い。広報や整備前の周知に力を入れてほしい。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわまちづくりで整備した施設などを広報する資料を作成していく。（R4年6月 かわまちづくりマップ作成）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡市にキラークンテンツがないのが課題であったが、北上川には木伏緑地に加えて、大きな売りとして舟運という事業ができた。今後大きな展開が期待できる。</li> <li>街なかであるが自然豊かで親水性がある中津川では、将来のあるべき姿を見据えながら、何かやっていかれないかと思う。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>北上川舟運：国土交通省が整備した船着場を活用し、主体となっている地元団体と行政が連携し、安全な定期運航を目指し取り組んでいく。</li> <li>中津川：将来のあるべき姿とそれを踏まえた今後の方向性について、かわまち勉強会で話し合いを進めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レンタサイクルを活用して、サイクリングとのかけ合わせは有り得ると思う。また、グルメを絡めて新たな魅力を発信できるのではないか。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわまちづくりの施設整備は終了している。遊歩道への自転車の導入の是非については利用者や地域の方々の意見を聞く必要がある</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>北上川派、中津川派がいるともいえる状況だが、川はつながっているし、様々な方法（自転車、歩き、舟）で巡ってほしいし、そこに関わっている人たちが一緒に活動できたらよい。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわまち勉強会を中津川と北上川の2つのグループに分けているが、活動の目的、規模など共有が難しい部分もあるので、今後どのようにするかは、勉強会のなかでも協議していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>中津川が市民活動の原点であり、誰もが好きだし知られている。一方、北上川が活用されていない。特に鉾屋町かいはいの新山舟橋や新山河岸の辺りが歴史的にもなかなか周知されていないので、あえてPRしている。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>新山河岸周辺のPRについては関係者と検討しながら進めていきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後自主的な組織を立ち上げるというときは、ただ審議するだけではなくて、動く、働くそういった団体になっていく必要がある。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわまち勉強会は、本来の位置付けでは、議論だけでなく実践を前提とした活動を目指している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的組織の立ち上げに際しては、公共性の観点や様々な立場の人の交通整理をする意味から、盛岡市のほうで音頭を取っていただくのが一番良いと思う。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会は、R8年度から盛岡市に事務局完全移行となることから、R7年度までに持続可能な勉強会あり方を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度以降の自主的な組織をどうするかというところは、今後議論したい。川の利活用や情報発信を中心に、市民の方が川をどのようにとらえているかなどを出発点として議論させていただきたい。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的な組織のあり方について、かわまち勉強会で議論し検討していきたい。（勉強会は、R8年度から盛岡市に事務局完全移行となることから、R7年度までに持続可能な勉強会あり方を検討する。）</li> </ul>
	<b>④ 対外的情報発信</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>木伏緑地に関して専門雑誌などでのフォーマルな発信実績があるが、一般市民にも伝わるような工夫が必要である。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門誌だけの発信にとどめず、こうした記事掲載があったことを市民が目に見える媒体にも報告するようにしたい。（市広報誌、SNS、おでって掲示板等に掲載）</li> </ul>